

地域の環境技術研修

1. 概要

SR科1年生の、「理数探究基礎」の一環で、地域のごみ処理とごみ処理にかかわる科学技術についての学習する地域の環境技術研修を実施した。本研修を通して、地域の環境に目を向け、環境負荷低減のための科学技術が身の回りで使われていること、メーカーでの仕事の流れを学ぶことで、自然科学を研究する意義への理解を深め、将来、科学技術人材として働くキャリアイメージを養った。

2. 仮説

- ① 環境問題を考える際に判断の元となる知識を、体験を通じて身につけることができる。
- ② 製造業にかかわる仕事についての理解を通して、科学技術人材として働くキャリアイメージが養われる。

3. 経緯と状況 4~6月 計画 7月 実施 7月 評価

4. 事業の内容

実施日時 令和7年7月11日(金)
実施場所 尼崎市立クリーンセンター第2工場、尼崎市立資源リサイクルセンター、株式会社タクマ
参加人数 SR科1年 39名
内 容 クリーンセンターおよび資源リサイクルセンターの見学、株式会社タクマ様にてごみ処理技術についての講義および製造業にかかわる仕事についてのワークショップ
指 導 クリーンセンター第2工場：吉井 崇晃 様
リサイクルセンター：屋田 純喜 様、四本 大輔 様
株式会社タクマ：技術企画部 技術企画課 印藤 信哉 様



5. 事業の効果とその評価

以下、4件法によるアンケートの結果

【深く洞察し、解決する力】研修内容について、理解している 前2.6→後3.3

【多様な視点で見る力】内容について説明したり、図や表を活用して分かりやすくレポートをまとめられる。
前2.6→後3.1

【課題設定する力】研修内容について問いを見出すことができる。前2.8→後3.2

兵庫県立人と自然の博物館研修

1. 概要

博物館の研究員の方々から専門分野の講義や実習を受け、博物館を見学し、研究について質問をする。

2. 仮説

専門的な講義や実習、博物館見学、研究員の方との質疑応答によって視野が広がる。

3. 経緯と状況 4~6月 計画 9月 実施 10月 評価

4. 事業の内容

実施日時：令和7年9月30日(火)
実施場所：兵庫県立人と自然の博物館
参加人数：SR科1年 40名
内 容 (1) 講義「鳥類の求愛コミュニケーション研究：飼育個体から野生個体まで」
(2) 講義・実習「野外での昆虫調査方法」
(3) 講義「博物学と人と自然の博物館について」
指 導 兵庫県立人と自然の博物館研究員 太田 菜央先生、同館研究員 坂本 貴海先生
同館特任研究員 竹中 敏浩先生



5. 事業の効果とその評価

以下、4件法によるアンケートの結果

【深く洞察し、解決する力】内容について自分なりに考え、レポートにまとめられる。前2.4→後2.9

【多様な視点で見る力】内容について説明したり、図や表を活用して分かりやすくレポートをまとめられる。
前2.6→後3.0

【課題設定する力】今回の内容について問いを見出すことができる 前2.6→後2.9

人と防災未来センター研修

1. 概要

阪神淡路大震災や東日本大震災を経験し、事前に災害に備えることの必要性を強く思い知らされた。その経験をもとに、地震の仕組みを学び、災害に対して、どのようなことを準備するべきかを兵庫県立大学大学院減災復興政策科の取り組みから学ぶ。

2. 仮説

講義などを通して、災害時の備えを学び、減災のための取り組みを考えることができるようになる。

3. 経緯と状況

4月 計画 6月 打合せ 7月 実施

4. 事業の内容

実施日時 令和7年7月30日(水)
 実施場所 人と防災未来センター
 兵庫県立大学大学院減災復興政策科研究室
 参加人数 SR科1年40名 普通科2年4名
 内容 人と防災未来センター研究員による防災セミナー、館内見学
 講義「阪神・淡路大震災、東日本大震災から学ぶ防災教育」
 兵庫県立大学大学院減災復興政策科 浦川 豪 教授



5. 事業の効果とその評価

仮説について、以下の問いに「当てはまる」または「やや当てはまる」と答えた生徒は以下のとおりである；「自分の新しい発見があった」：97%、「内容が面白かった」：95%。生徒は、阪神・淡路大震災を知らない世代であるが、展示や体験を通して災害を自分事として捉え、何ができるか減災防災の取り組みを考えていた。

地域の工場見学 ～尼崎にある企業の魅力を知る～

1. 概要

SR科1年生の「理数探究基礎」の一環で、尼崎市しごと支援課の協力の下、企業4社の工場見学を実施し、科学技術と産業（製造業）のつながりについて体験的に学習した。

2. 仮説

- ① 製造現場を実地見学することにより、ものづくりの大切さや科学技術とのつながりへの理解を深める。
- ② 実際の企業の方から話を聴くことによって、地域活性化を身近に感じることができる体験となる。

3. 経緯と状況

6～8月 計画 10月 実施 11月 評価

4. 事業の内容

日時・場所 令和7年 10月7日(火) 株式会社住友ベークライト 尼崎工場
 三菱電機株式会社 伊丹総務センター
 株式会社ダイセル 神崎工場
 王子イメージングメディア株式会社 神崎工場

参加人数 SR科1年40名
 内容 企業からの会社概要説明と工場の見学

5. 事業の効果とその評価

ものづくりの大切さを知ることにより、今後の探究活動に役立つ。また、新たな問いを立てるときに大きなヒントになる。

【深く洞察し、解決する力】今回の内容について理解している 前2.7→後3.6

【多様な視点で見る力】今回の内容について説明したり、図や表を活用して分かりやすくレポートをまとめることができる 前2.8→後3.5

【課題設定する力】今回の内容について問いを見出すことができる 前2.7→後3.4